

Eureka V

六年制通信 No.22 平成 29 年 11 月 2 日 (木) 号

独学のために

…わたしの友人に旧制一高を一度でパスしたにもかかわらず、「学校なんてばかばかしいところだ」と一学期で退学した人がいる。作家の森敦さんである。

森さんの勉強法はユニークで、数学を勉強するときに、英国で発行されている英文の本を使った。こうして森さんは、数学を勉強しながら英語もマスターしてしまった。

一高を中退した森さんは、レンズの会社に就職した。あるとき、照準鏡の新しいレンズの注文があったが、会社には新型レンズを設計できる人が一人もいない。

「物事は自分で勉強しなければしょうがない。よし、やってみよう」

森さんはそう思い、ニュートンの『プリンチピア』という本を読みだした。たちまちのうちに高等数学をマスターした森さんは、レンズ会社で一番の設計者になった。設計したレンズが優秀であったので、森さんはいっきょに技師長に抜擢された。一高でいっしょであった東大理学部出身の同僚は、大卒という肩書で先に出世していた。ところが、一高中退の平社員であった森さんは、わずか三年で逆転出世を遂げたのである。

その後、森さんは電源開発会社に転職した。発電所を作るためには用地買収をしなければならないが、この仕事はたいへんむずかしい。森さんはそれを一手に引き受け、三年にして日本一の用地買収の専門家になった。

やがて森さんは、文芸の世界に入り、小説に目を転じた。こうしてものした作品が芥川賞を受賞したのである。…

以上、糸川英夫『独創力』(光文社カッパブックス)からの引用です。

糸川英夫は戦闘機の設計者として、あるいはロケット博士として有名ですね。もうずいぶん前になりますが『逆転の発想』がベストセラーになりました。

森敦が『月山』で 1974 年度の芥川賞を受賞したのが 60 歳を過ぎたころです。黒田夏子さんが 75 歳で受賞するまでのおよそ 50 年間、森さんが芥川賞の最年長記録でした。黒田さんの 75 歳は大きな話題になりましたが、サンスクリット学者の辻直一郎博士のお子さんだということで、我々はそっちの方が驚いたのです。森さんについては、小説家になるまでに様々な職種を経験していたことなども、全く知りませんでしたが、最近糸川さんの本を読み返していたら、上述の箇所を見つけたので、糸川さんの書いたとおりに転写しました。『プリンチピア』は普通『プリンキピア』ですがあえてそのままにしました。また、『月山』は、私は 40 歳を越えてから読んだはずですが十分に鑑賞する力がなかったらしく、ほとんど印象に残っていません。お恥ずか

しい限りです。

さて、糸川さんは友人である森さんの華麗な転職の秘密をこう推測しています。森さんが中学生の頃、柔道の先輩から「たった一つでいいから、人に負けない技を習得するように」言われ、左跳ね腰だけを毎日練習したというのですね。このエピソードから、まず左跳ね腰だけを二年三年と続ける根気が必要である。また、その技を習得しようとする学習力も必要である。そして、そういうアドバイスをしてくれたよき先輩との出会いがあった。つまり、根気、学習力、出会いの三つが森さんの秘密の根底にあったのではないかと糸川さんは考えるのです。さらに、人生で華麗な転職をしている人は決して移り気な人ではなく、実はたいへん根気強い性格の人だと結論づけています。これは糸川さん自身の経歴を自己肯定しているわけですが、確かにそういう面はあると思います。

私は、これに加えて「基礎力を持った人の独習力」というのも重要だと考えています。そして学校教育の役割はここに集約されていると思っています。森さんにしても基礎力なくして『プリンキピア・マテマティカ』が読めるはずがないのです。十分な基礎力があって、独習していく根気があって、初めて読めるものでしょう。論語にも

「君子は本^{もと}を務^{つと}む。本^{ほん}立ちて道^{みち}生^{しょう}ず」とあります。「本」は基礎のことです。基本さえしっかりしていれば、進む道はある、と言った意味でしょう。私もそう思います。皆さんは今、この最も大切な基礎力の養成に時間を使っているのですね。ですから、自覚を持って勉強してほしいと思います。将来、どのような道に進んでも大丈夫なだけの基礎勉強をしているのだと。

学校で学んだことは役に立たないと、よく言われます。森さんも学校の勉強をつまらんと断言しています。しかし、彼が行く先々で一流の仕事ができたのは、学校教育で独習を可能にするだけの基礎力を身につけたからです。若い君たちのために、森さんのような人にこそ、そのことを言ってほしかったなあ。

独習できるということは、計画を立てることができるということでもあります。自分の能力と目の前の習得すべき対象の難しさを考えて、どのくらいの時間をかければどの程度を習得できるかを、自分で考えられるということです。ということは、基礎力の養成を行う時期に、自分の全力を知ることが大切です。本気でやったらできるのに、と言う人が軽蔑されるのは、全力を出していない証拠だからでしょう。

そう言えば、以前T自動車の人事部長さんと話す機会がありました。高卒で採用になるとラインの仕事をするのですが、そこから別の部署にかわることはまずないのだそうです。私が例外はないのですかと聞くと、例えば英語が読めるようなら（指示書が英文の場合があるそうなのです）現場監督とか、あるいはもっとデスクワークへの移行もあります、とのことでした。こういう時、独習できる基礎力と根気がある人とない人の差が大きく出てくると思うのです。むろん、どのような職場でも、自分で学んでいかなければならない内容はあります。今の勉強は、その時のためだと思って頑張ってください。